令和3年11月発行［第17号］

# グループホーム こまば 木もれ陽

## その人らしく 変わらぬ生活を

## 相良ホーム長の ご利用者ファースト

**『 入居しても変わらぬ生活を 』**

新しく入居されたＫさんは元ピアノの先生です。
人の役に立ちたいと常に思っている方でどんな事でも進んで手伝ってくれますが、時々「生徒が待っているので…」とおっしゃるので、やはり本当にやりたいのは「ピアノを教えたい」ということだと思います。そこで、職員がピアノの生徒になって教わっています。私はピアノを弾いた事はありませんでしたが、ひと月少々で、今「蝶々」と「チューリップ」を弾けるようになりました（それも両手で！）。
周りで見ている他の利用者は、私が教わりながら一生懸命弾いている姿が微笑ましいらしく、応援してくれたり一緒に歌ってくれたりするのです！
これは、ご本人のニーズを叶え私もピアノが弾けるようになり他の方も喜ぶ、という一石三鳥です。

## 散歩を再開しました

職員・利用者共にワクチンを２回打った事と東京都の新規感染者が減少し緊急事態宣言が解除された事に伴い、10 月 1 日からご家族の対面での面会と日常の外出を開始しました。
久しぶりに近所や公園を散歩すると、「お久しぶりです」との声を掛けられました。以前は散歩や買い物がてらほぼ毎日ご挨拶していたので、約２年ぶりの再開です。お互いに元気で何よりですし、ホームが近所に根付いていた事を実感しました。また、散歩していると、面会目的ではない通り過がりのご利用者ご家族ともばったり出会いました。「あぁ！お母さん！」なんて言ってそのまま別れたのですが、これこそが「地域で生活する」ということなのだと実感しました。

## こまばのケアをご紹介

『 調理に関するケアの視点 』
調理は様々な工程が沢山入る複雑な作業です。これを継続していくためには、本人の手順を守り、できるだけ毎日でも同じ調理をする事が大切だと考えています。
Ａさんは入居した時から３年以上毎日ずっとキュウリの酢の物を作っています。本人が最初に作りたいとおっしゃった料理で当時は味付け・盛り付けまで全てご自分で行っていました。しかし、月日の経過により、残念ながらわからないことが徐々に増えていき、味付けができなくなったり、違うものと和えてしまったりするようになっていきました。それでも毎日同じ工程を繰り返していくことで、職員はその方が「何ができなくなったのか」がわかるのです。それがわかれば、そこだけを手伝えば他の手順は継続することができます。今は、味付けと工程のお膳立ては手助けが必要ですが、切る・絞る・盛り付けは継続できています。ケアの視点として、その方が自分の手順を持っているならば、それを守る事が大切です。そうすることがずっとやり続けられることに繋がります。
なかには特に自分の手順はなく「人の役に立ちたい」「手伝いたい」というニーズをお持ちの方もいらっしゃいます。
その方には職員や他の利用者と一緒に調理を行い、役に立ちたいというニーズを叶えていく事が大切だと思います。

**【自転車に乗ってる方へのお願い】**

自転車で歩道を走る際は歩行者に細心の注意を払ってほしいです。ご利用者と歩いていて「危ない！」と感じることがよくあります。認知症の方が安心して歩ける社会は子供や様々な特徴を抱えた方々も住みやすい社会です。それを創るのは一人ひとりの心がけだと思います。よろしくお願いします。

［第17号］

# グループホームこまば　木もれ陽

東京都目黒区大橋２－１９－１　　TEL 03-3466-6600

## グループホームこまばの暮らし

７月に施設内で嘱託医の先生により、職員・ご利用者とも
新型コロナウイルスワクチン２回接種終了しました

今年もベランダ菜園が豊作でした！
ナス・トマト・ピーマンが大量にとれ
ました。毎朝ご利用者さんが積んでき
てくれて美味しくいただきました
今もまだピーマンがなっています

誕生日は当日にお祝いします
ご自分でデコレートしたケーキ
を皆で頂き、お祝いしました。
ご家族からの手紙には涙を浮か
べて喜んでいらっしゃいました

七夕には、近隣の花屋殿山園さん
で笹を購入して飾りました
折り紙で作った飾りを下げ
皆さんで短冊にお願い事を書いて
吊るしました

夏祭りは、コロナ禍のため去年に引き続き
ホーム内だけでの開催になりました
焼きそばやベビーカステラなどお祭り
メニューをみんなで作って食べる楽しい会
になりました

駒場苑事務所から歌と演奏の
助っ人も来て盛り上がりました！

最近、元ピアノの先生がホームの仲間になり
食後やお茶の合間などに演奏してくれたり
歌の伴奏をしてくれます
楽しい時間が増えて感謝です！